

令和5年9月19日
総務省
一般社団法人全国過疎地域連盟令和5年度過疎地域持続的発展優良事列表彰における
総務大臣賞及び全国過疎地域連盟会長賞の決定

総務省及び全国過疎地域連盟は、令和5年度の過疎地域持続的発展優良事列表彰における総務大臣賞及び全国過疎地域連盟会長賞を以下のとおり決定しました。

表彰式については、10月26日（木）富山県にて開催予定の「全国過疎問題シンポジウム2023 in とやま」において執り行う予定です。

1 過疎地域持続的発展優良事列表彰について

本表彰は、過疎地域の持続的発展と風格の醸成を目指した過疎地域の取組を奨励するものです。過疎地域持続的発展優良事列表彰委員会（委員長 宮口侗廸早稲田大学名誉教授）において、優れた成果を上げた過疎対策の先進的・モデル的事例としてふさわしい、地域の特性を活かした創意工夫ある優良事例を選定しました。

2 受賞事例

◎総務大臣賞（3事例）

団体名	キャッチフレーズ	概要
一般社団法人 ^{ひっぼ} 筆甫 地区振興連絡協議会 (^{まるもりまち} 宮城県丸森町)	地域の課題・難題にな んでも挑戦！ 協働の地域づくり	平成22年度に丸森町から筆甫まちづくりセンターの指定管理を受けたことを契機に、地区住民自らが住み慣れた地域で安全・安心に自分らしく暮らすことができる地域社会の構築を目指し事業を開始。 地域の重要課題であった獣害対策としてイノシシ対策、高齢者の困りごとを解決する「お助け隊」、特産品である「へそ大根」のブランド化、買い物弱者対策として店舗の開設、ガソリンスタンドの事業承継など、暮らしやすい地域を地区自らがつくり続け、「地域の自立」や「持続可能な社会の形成」を具現化している。

<p>やまこし 山古志 住民会議/ネ オ山古志村（山古志 DAO） （新潟県 <small>ながおかし</small> 長岡市）</p>	<p>NFT×限界集落 ～デジタル村民と挑 戦する新たな村づく り～</p>	<p>中越地震による被災、平成の大合併による市町村合併を契機に住民主体の地域づくりの機運は高まる一方で、少子高齢化をくいとめることが出来なかったが、物理的制約を解放するデジタル技術に可能性を見出し、取組を開始。</p> <p>ローカルの価値を最大限に広げるのがデジタルであると考え、NFTを「デジタルアート×電子住民票」として活用し、NFTを接点とした共同体を形成し世界中から知恵や資源、独自資金を集め、地域を存続させる挑戦をしている。</p>
<p>あさひまち <small>じっしょう</small> 朝日町 MaaS実証 <small>じっけんすいしん</small> 実験 推進 協議会 （富山県 <small>あさひまち</small> 朝日町）</p>	<p>手軽、気軽、みんな 助かる！ノックル！</p>	<p>持続可能な地域交通の確立が求められるなか、人も車も大切な地元の資源と捉え、住民の自家用車移動を活用し、同じ方向へ出かけた移動ニーズとのマッチングを図る『共助型マイカー乗り合い公共交通サービス』として取組を開始。</p> <p>「移動」という側面から全世代がメリットを享受できる仕組みを実現しているほか、地元交通事業者も積極的に巻き込み、役割分担とサービスの差別化を図ることで、パイの奪い合いではなく共創による事業運営を実現している。</p>

◎全国過疎地域連盟会長賞（5事例）

団体名	キャッチフレーズ	概要
<p>株式会社ホップジャパ ン （福島県 <small>たむらし</small> 田村市）</p>	<p>過疎地域のリソース を産業循環エコシス テムで活用し中央 あぶくまから発信、 あぶくまブランドを 造成する</p>	<p>2000年代初頭に途絶えた福島県のホップ農業を地元農家と復活させ、ブルワリーを開業し、地域活性化の一翼を担っているほか、ビールの製造過程で排出されるホップや麦の粕を肥料として活用するなど、資源の再利用を行い、地球にやさしいまちづくりも実践している。</p> <p>また、新しい価値観に基づいた企業誘致の手法「LESIP」にも取り組んでおり、実際にその理念に共感した人が移住を予定しているほか、新たな企業が地域に進出するきっかけにもなっている。</p>
<p>しょうわむら 昭和村 （福島県 <small>しょうわむら</small> 昭和村）</p>	<p>夏秋期生産量日本一 の昭和かすみ草「百 年産地」を目指して</p>	<p>豪雪地帯という特徴を活かして、夏季の保冷に雪を使用する「雪室」を整備したことで、カスミソウの品質確保・向上が可能となり、夏秋期の生産量日本一、国内シェアの6割を達成している。</p> <p>また、カスミソウ栽培の担い手確保・育成事業にも取り組んでおり、直近5年の就農定着率は100%であった。さらに、村内の小中学生にカスミソウ栽培体験（「花育」）を行っており、次世代のふるさとへの愛着の醸成と村の基幹産業への理解につながっている。</p>

<p>ろんでん 論田自治会及び くまなし 熊無自治会、ろんく ま移住促進委員会 (富山県 ^{ひみし}氷見市)</p>	<p>～ねこ“ろん”で “くま”なく歩いて 住んでみて～ ん くま移住促進計画</p>	<p>地域資源を活かしながら、住民にとってさらに住み良い地域、移住者など地域外から人が訪れる地域を目指し、地元特産の草もちの事業承継、自治会の負担を減らすためのLINEでの電子回覧板の運用、地元文化財を巡るウォーキングイベントの実施、マスコットキャラクターなどの制作といった様々な地域を盛り上げる取組を展開している。</p> <p>各取組にキーパーソンがおり、世代間でバトンが受け継がれているほか、移住者や大学など地域外からの風が流れ込み、好循環が生み出されている。</p>
<p>特定非営利活動法人 ^{ほん おんせん} 本と温泉 (兵庫県 ^{とよおかし}豊岡市)</p>	<p>地産地読</p>	<p>「本と温泉」は2013年の志賀直哉来湯100年を機に次なる100年の温泉地文学を送り出すべく、城崎温泉にある旅館の若旦那衆が中心になって立ち上げたプロジェクトである。</p> <p>本をきっかけに「城崎のまちを訪れてくれること」等を目的に、城崎でしか買えない本を出版している。また住民、作者等と協力しながらイベント等も開催し、観光客のみならず、住民、作者等との交流も図っており、誘客促進やまちの活性化に繋がっている。</p>
<p>^{けか} 家賀再生プロジェクト (徳島県 ^{ちよう}つるぎ町)</p>	<p>家賀と藍をこよなく 愛する家賀再生プロ ジェクト</p>	<p>国内最大規模の急傾斜地である家賀集落では、年々過疎化が進み、集落存続が危機的状況だったが、平成30年に地域の伝統農法が、中四国で初めて「世界農業遺産」に認定されたことを契機に、地域外居住メンバー5人で「家賀再生プロジェクト」を立ち上げた。</p> <p>「世界農業遺産」を活かした「藍」栽培復活、食用「藍」の商品化、家賀集落の紹介など、地域資源を活かして地域活性化や雇用創出を目的に事業に取り組んでいる。</p>

※一般社団法人全国過疎地域連盟は、過疎関係都道府県及び過疎地域市町村等を会員とする団体で、会員相互の緊密な連絡提携により、過疎対策事業の充実強化を図り、過疎地域の持続的発展を促進し、過疎地域における産業・経済の開発振興と、地域住民の生活と文化の向上を図ることを目的とする団体です。

<p>連絡先</p>	
<p>総務省地域力創造グループ過疎対策室 担 当：平本、内藤 直 通 電 話：03-5253-5536</p>	<p>一般社団法人全国過疎地域連盟 担 当：菊地、吉川 直 通 電 話：03-5244-5827</p>